

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が事業所理念を意識し支援出来るよう心掛けている。職員会議等で話し合い地域密着型サービス事業所として実践に繋げるよう取り組んでいる。	ホーム理念が玄関フロアや各階ホールの壁に誰にもわかりやすいように掲げられている。職員間でも理念について常に立ち戻るように話し合いを深め、日ごろの支援につなげている。職員に、理念にそぐわない言動があった時には管理者が個別に気持ちを聞いて助言している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍という事もあり、地域との交流の場が少なかったが、民生委員・地域包括等に事業所新聞を届け、生活の様子等を伝えている。また個別対応として、馴染みのお店に出掛け時間を過ごす等の取り組みを行っている。	自治会に加入して会費を納めている。防災訓練・清掃活動等の地域活動には積極的に参加し、その機会に事業所の様子を伝え地域の人々に認知症についての啓蒙にも取り組んでいる。今年度は新型コロナ禍ということで自粛ぎみとなっているが例年であれば公民館のサロンや学校行事に招待されたり、地域ボランティアの来訪があったりと活発に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍という事もあり、地域行事など多くが中止になる中、地域の方々に事業所新聞を届け、日頃の様子を含め伝えながら理解していただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場と連携し、事業所判断で開催は中止としているが、月に1度、担当者からの手紙や事業所新聞等で報告を行っている。	年6回、奇数月に開催予定としていたが、新型コロナ禍のために今年度は資料を送付して報告する形となった。家族、民生委員、区長、消防団員、町包括支援センター職員、保健福祉課職員、ホーム職員というメンバー構成になっている。例年の開催時には意見やアイデアをいただき、それを支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1~2度、事業所新聞や待機者の現状等を伝え、日々の取り組みや日常生活等を伝え、また管理者は適宜、連絡・相談を行っている。	町役場にホームの新聞を届けながら待機者状況等を報告して、随時相談することで協力関係を築いている。町から認知症に関する講師派遣依頼もあり同じエリアの法人内の事業所ともに対応している。介護認定更新時の面接はホームで行い、家族を含めて職員も立ち合い情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を行い、ご利用者個々に合わせた支援を目指す中で、身体拘束に該当すると思われる事例を検討しながら、理解に努めている。	玄関は日中、開錠している。ユニット毎の入口は安全のために施錠されているが、希望時はすぐ開けられるようになっている。拘束を必要とする方や外出傾向の強い方は現在いないが、様子を見てストレスがたまらないように散歩にお誘いしている。定期的に拘束をしないケアの内部研修を実施し日ごろの支援の中で拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やカンファレンスで高齢者虐待に対する勉強会を行い、スピーチロックや呼び方等、意識するよう心掛け不適切なケアの防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が権利擁護に関して理解できるよう知り組んでいる。事業所内で利用している方もいる為、研修等で学んだ職員が発信し情報共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人・ご家族に安心していただけるよう十分な説明を行っている。質問・不明な点等があれば、その都度お答え出来るように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の何気ない会話から要望を伺い、ご家族にはお電話・運営推進会議等でご意見・ご要望をいただき、申し送りやカンファレンスで周知し改善や運営に反映している。	ほとんどの利用者は要望を伝えることができる。若干名の方は表情やしぐさからくみ取るようにしている。新型コロナ禍で家族の来訪は限られ玄関でガラス越しの面会となっているが、来訪時には意見や要望を伺うようにしている。毎月発行のホーム便りと個人の写真を送って日常の様子をお知らせして家族からは喜ばれている。開催できる時は運営推進会議に併せて家族会を開き、昼食をとりながら交流を図り意見を聞き運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の職場会議・フロア一会議内で、各職員の意見や提案を聞いてもらう。また年2回、個人面談を行い、直接伝える機会を設け、環境・雰囲気作りに職員の意見を反映している。	月1回、職員全体会議とフロア会議が開かれている。運営面からの報告もあり、支援に関しては活発に意見交換をしている。年2回、自己評価票に基づき管理者による個人面談があり意見を述べる機会ともなっており、業務改善に反映されている。新年会など法人内事業所の集まりがあり、交流が図られている。各ユニットの職員は定期的に異動することでホーム全体が見え、各職員の立場や役割も知ることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの面談や聞き取りから、職員それぞれの就業時間などを把握し、職員の向上心が維持出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や能力、職員の思い等を聞き、職員個々に合った外部研修を勧めている。研修の報告や内部研修等で学んだことを他職員に周知して、職員全員のレベルアップを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1度、同法人内の研修会に参加し職員同士の意見交換や交流を図り、意識や捉え方の向上が図れる場を設けている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の情報提供書等で全職員が周知し、入居後は担当者を設け、密な関係性を築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを傾聴し、入居後も安心していただけるよう支援に取り入れ取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス等で、ご本人・ご家族・ケアマネージャーからの情報から、ご本人に合った支援方法を検討。全職員に周知・徹底を行い、安心していただけるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身近に出来る家事活動等、一緒に出来る雰囲気・環境作りを心掛けている。ご本人の生活歴・現状の状態等から職員も頼れる事は依頼し、家族のような関係を持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者から月に1度、事業所新聞や手紙等、ご本人の様子を報告し、面会時にはご家族の要望等を伺い、同じ思いで支援出来るよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には規制があるものの、友人や近所の方等の面会時には、ゆっくり過ごしていただくよう配慮している。行きつけの美容院や喫茶店等、ご本人の要望があれば出掛ける時間を設けている。	知人・友人の来訪を大切にしているが、現在は新型コロナウイルス禍にあり自粛している。そうした中、行きつけの美容院に感染症対策をして出かけ、帰りには自宅に寄り、ゆったりとした時間を過ごしてくる方もいる。受診の際は少し足を延ばして馴染みの店で買い物をし、馴染みの店員と言葉を交わすなどの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を含め、座席等にも配慮している。日頃のレクリエーション等も、出来るだけ全員が参加出来るようご利用者同士が楽しめるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了理由によって対応は様々であるが、レクリエーション講師やボランティア等で来所していたく事もある。また近隣の方等には近況を伺い、何か協力できる事はないか尋ねたり世間話をしたり、関係が断たないよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の希望や意向を会話の中から把握し、職員全員に周知して希望に沿えるよう努めている。困難な方に関しては、表情等により汲み取るよう努めている。	ほとんどの利用者が思いを表出することができる。職員は利用者の気持ちを決めつけて判断しないように努めている。何か提案する時はできるだけ複数の選択肢の中から選んでいただき希望に沿うようにしている。職員はホームの暮らしの中でふと話された思いを連絡ノートや個人記録に残して共有するようにし、支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等、生活歴や趣味・嗜好等を把握している。入所後は、月に1度ケア検討で職員全員が把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、職員全員が把握に努めている。入浴時には身体状態のチェック等必要であれば、受診し身体状況に異常が見られないよう把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と相談し話し合い、支援に繋がるよう取り組んでいる。また在宅での生活環境や嗜好等を取り入れ、支援できるよう取り組んでいる。	職員は2~3名の利用者を担当している。フロア会議でケアに関する検討会を持ち、半年に1回介護計画の見直しとモニタリングを行っている。家族の意向については直接聞けない時は電話にて伺いケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や言動等、申し送りや介護記録に記載し、職員が把握できるよう取り組んでいる。必要時ケア検討行い、その都度、支援の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の方も多く、自宅や近隣の事が心配になるご利用者もいる。可能な限り希望に沿えるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でイベントや催し事が少ないが、地域の行事に参加したり、町主催のふれあい広場には、ご利用者の作品を出品したり地域との繋がりを意識した支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が信頼している医療機関をかかりつけ医としている。受診時は、医療機関への情報提供を行い、円滑に進むように努めている。	ほとんどの方が利用前のかかりつけ医を継続しており、若干名の方は法人クリニック医師の往診を月2回受けている。かかりつけ医は地域にある総合病院で、利用者と医師との信頼関係ができており家族同伴の受診も継続できている。新型コロナ禍での受診は職員が対応することが多くなっている。歯科はホーム協力歯科医による往診が可能となっている。ユニット毎に看護師が1名ずつおり、日頃の健康チェックや相談もでき、利用者や家族、職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定やご本人の様子等から気を配っている。異常発見時には看護職に相談・報告を行い、必要であれば受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の医師やソーシャルワーカーと連絡を取り合い、情報提供や相談に努めている。退院時には、ご利用者が安心して生活できる環境を作り、緊急時の医療機関との連絡方法も確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望・要望等をいただき、支援できるよう取り組んでいる。また状態に変化がある際、医療機関や医師との連携、ご家族の意向も、その都度確認の上、支援している。	利用契約時に重度化した場合の対応について説明し、重度化事前同意書を頂いている。状態の変化に合わせて利用者と家族の思いを受けとめ、医師や職員は方針を共有しチームケアに取り組んでいる。昨年度は3名の看取りを行った。急変時の看護師・責任者への連絡マニュアルもあり職員は連携をとりながら対応している。亡くなられた後も時々家族がホームに立ち寄り下さることが職員の励みとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内・外部の緊急時の応急手当の勉強会に参加し、有事の際は慌てる事なく緊急時の対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、地震や火災時の避難経路の確認や消防署への連絡方法、消火訓練を行っている。年1回の地域防災訓練には職員が参加し非常時には協力が得られるように努めている。	年2回、6・12月に避難訓練を実施しており、うち1回は消防署立会いの下行っている。火災や地震を想定して利用者は玄関の外やベランダに避難している。腰布団を頭にかぶり身を守る訓練もしている。状況によっては近くの民家に大声で助けを頼むこともできる。地域防災訓練時には職員も参加しホームの様子を知らせ、地元の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修やカンファレンスで、基本のご挨拶や言葉掛けについて職員個々が意識を高めるよう指導している。入浴・排泄は羞恥心への配慮も行い取り組んでいる。	研修で学びながら、あいさつやことばがけについては利用者の誇りを傷つけないように接している。名前は家族の希望もあり地域の慣れ親しんだ呼び方で「〇〇ちゃん」と呼びすることが多いという。新人職員や実習生には守秘義務や個人情報の取り扱いについて指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就寝や起床、入浴時等、出来るだけ本人が着たい物を職員と一緒に選んでいる。また、ご本人に身だしなみを整えていただき、メイクも楽しんでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を尊重し、レクリエーションや家事活動等の参加をご本人に決めていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を尊重し、ご利用者と共に衣類等を選び、職員の意見を押し付けないように配慮している。外出に合わせて行きつけの店を訪れ購入する等、工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中から好きな物・食べたい物を把握し、献立に取り入れている。また調理・下ごしらえや食事の準備・片付け等にも参加していただき、食事が楽しくなるよう取り組んでいる。	全介助と一部介助の方が数名ずつで、大半の方は自力で箸や自助具を使い食事を楽しんでいる。法人から献立表が送られ調理専門職員が食材準備と調理を担当している。利用者は皮むき、味見、食器拭きなどのお手伝いをしている。ホームの畑ではジャガイモを中心に季節の野菜を作り、近所からは果物・野菜の差し入れが多くあり、食卓を彩っている。誕生日の特別メニューについては利用者に希望を聞いているが、赤飯、煮魚、煮物が人気で楽しんでいるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が確保できない場合、ご本人の好きな物を用意したり、補助食品等を摂取している。水分に関しても、好みの味や温度等を調節して必要摂取量の確保に向け努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人で可能な限りケアをしていただいている。様子を見て、職員が口腔ケア・うがいを行っていただくよう声掛けし取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便パターンや尿量などを把握し、トイレへの誘導を行っている。排泄の自立にむけたケア検討を行い、パッドの種類も変更している。	自立の方は若干名で、ほとんどの方は何らかの介助が必要となっている。布パンツ、おむつ使用の方は若干名で、あとはリハビリパンツにパッドを使用している。排泄の自立に向けて個別のケア検討を行い、パッドの種類を変更するなど、状態に合わせて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸運動しやすいよう、日頃のレクリエーション等に体操を取り入れている。水分補給や乳製品等も活用し排便を促すよう取り組んでいる。排便時には排泄表に便の形状や量をチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望や体調に合わせて入浴時間等を調整している。ゆず湯やりんご湯等、季節を感じていただけるよう取り組んでいる。	自立の方と全介助の方が若干名ずつで、大半の方は一部介助で入浴している。週2回、時間は利用者の希望に合わせて午前か午後に入浴している。柚子湯やりんご湯等、季節が感じられるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動量を増やし、安眠に繋がるよう日中のレクリエーションを工夫している。また使い慣れた寝具を使用していただき、安心して就寝していただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所で看護師が管理をしている。病院からの薬剤情報を把握し、誤薬がないように飲み込みを確認し、職員同士が声を掛け合い、服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や地域での役割等を把握し、日常生活の中で役割が出来るよう、その人らしい生活を送っていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度はコロナ禍という事もあり減少したが、ご本人からの希望があれば個別対応を行い、お花見ドライブや紅葉狩り、地域の小学校の運動会等にも参加させていただいている。	新型コロナ禍で行事外出は控えているが、近くの銀杏並木や桜の花見に4~5グループに分けてドライブに出かけている。日常的にはできるだけ身体を動かすように、台拭きや洗濯物干しなどお誘いして歩くようにしている。ホームの畑に出たり、数種類の体操に取り組むなど気分転換を図っている。また、移動図書館を利用して読書を楽しまれている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口としてお小遣いを預かり、職員が金庫で個別管理している。ご利用者から希望があれば、買い物を楽しめるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友達に電話や絵手紙・年賀状等をお送りしている。また連絡が入った際は、ご本人にも繋げ、会話していただくよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節の花など楽しんでいただけるよう、生け花やご利用者の作品等を展示している。ご利用者が心地良い生活が送れるよう支援に努めている。	玄関や居間・食堂は広々として、大きな窓からの陽当たりも良く、明るく落ち着ける空間となっている。壁には利用者の習字等の作品や写真が飾られ生活感がある。畳敷きの小上がりがりがあり、二人掛けの椅子も置かれ、利用者同士で談笑する場面も見られ、心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士がテレビを見たり、ゆっくり会話が出来る場所を作っている。場合に寄っては、席替えをしたり座る場所の工夫を行い、ご利用者の気分で過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自宅で使用していた家具や思い入れのある品を置いていただき、居心地良く・心地良く過ごしていただけるよう空間を利用している。	居室は十分な広さがあり、ベットや収納庫が備え付けられている。自宅からは利用者馴染みのタンスやハンガーラック、いす、テレビなどが持ち込まれて使いやすい配置されている。タンスの上には手作りの編み物作品やぬいぐるみ、家族写真などが置かれ、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者1人ひとり職員が把握し、手すりの活用や居室・トイレ等、分かりやすいよう大きい文字で書いている。ご利用者の自立した生活が出来るよう支援している。		